

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	650人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	11	1.7
80～89	63	9.7
70～79	127	19.5
60～69	142	21.8
50～59	116	17.8
40～49	102	15.7
30～39	54	8.3
20～29	26	4.0
10～19	8	1.2
1～9	1	0.2
0	0	0.0

\*合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.7%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率
1	1	(1) 95.2
		(2) 64.5
		(3) 71.7
		(4) 28.1
		(5) 85.7
		(6) 55.4
	2	(1) 74.9
		(2) 64.4
		(3) ア 88.2
		イ 73.8
		(4) 47.4
		(5) 問題 54.1 取組 75.1
小計		65.1
2	1	(1) 88.8
		(2) 66.3
		(3) 46.2
		(4) 69.6
		(5) 53.5
		(6) 20.5
	2	(1) 72.5
		(2) 28.8
		(3) 57.5
		(4) ア 55.6
		イ 66.2
		小計
3	1	(1) 88.4
		(2) 66.5
		(3) 27.2
		(4) 31.9
		(5) 50.3
	2	(1) 93.1
		(2) 75.7
		(3) 93.9
		(4) A 92.3
		B 89.2
		(5) ア 56.9 イ 61.0
	(6) 58.8	
小計		65.0
4	(1) 64.9	
	(2) 32.3	
	(3) 19.6	
	(4) 77.7	
	小計	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1	地理的分野	63.8	52.3	66.0	71.4	65.1
2	歴史的分野	58.7	47.6	55.8	66.6	53.3
3	公民的分野	54.2	50.4	61.9	63.8	65.0
4	3分野融合	—	—	53.3	67.2	43.9

## 2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の得点者の分布は30.9%で、昨年度と比べ16.3ポイント下がり、高得点者がかなり減少した。50点未満の分布は29.4%で、昨年度と比べ11.3ポイント上がり、低得点者も増加した。

〈表2〉について、いずれの大問においても、知識・技能を用いて、グラフや写真、年表等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる小問の正答率が低い。鹿鳴館において舞踏会のような政策がとられた理由を判断し、説明する2の1(6)、九州のジオパークの特徴を説明する4の(3)は、特に正答率が低い。

〈表3〉について、分野別の正答率は地理的分野と公民的分野が高く、歴史的分野が低い。昨年度との比較では、公民的分野を除いて地理的分野・歴史的分野ともに正答率が低くなり、3分野融合の問題である4は、昨年度に比べ、23.3ポイントも下がった。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点		
				記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断	資料 活用
1	1	地理的分野	(1) ユーラシア大陸について理解している。		○		●		
			(2) 中国の面積を日本の面積から判断することができるとともに、ホンコンがイギリスの植民地であったことを判断することができる。	○			●	●	
			(3) 中国の東端と西端の時差について、資料の経度を基に判断することができる。		○			●	●
			(4) 秋田の冬の気候について、資料からその特色を考察することができる。			○	●		●
			(5) 日本と台湾の貿易の変化について、資料から読み取ることができる。		○			●	●
			(6) 日本の工場の進出した国や地域が変化している理由について、資料から考察することができる。			○		●	●
	2	地理的分野	(1) 戦前の日本の人口ピラミッドについて、その特徴を理解している。	○			●		●
			(2) 将来の日本の人口構成について、資料から考察することができる。			○		●	●
			(3) 東京都の昼間人口が多い理由を資料から考察することができる。			○		●	●
			(4) 東北地方の地方中枢都市について、理解している。		○		●		
			(5) 過密地域のかかえる問題や過疎対策の具体的な取組について、資料から考察することができる。			○		●	●
2	1	歴史的分野	(1) 船形はにわと古墳文化の関連について、理解している。	○			●		
			(2) 国風文化の特色について、理解している。	○			●		
			(3) 中世から近世の歴史の流れについて、資料から判断することができる。	○			●		
			(4) 鎖国について、資料と年表から判断することができる。		○		●		●
			(5) 大阪が天下の台所とよばれた理由について理解している。			○	●		
			(6) 鹿鳴館の舞踏会政策がとられた理由について、資料から考察することができる。			○		●	●
	2	歴史的分野	(1) 産業革命について理解している。		○		●		●
			(2) 日本が国際連盟を脱退する決定をした背景について、資料から考察することができる。			○		●	●
			(3) 高度経済成長期の社会のようすを、資料から判断することができる。	○			●	●	
			(4) 沖縄の交通の歴史について、資料から考察することができる。			○		●	●
3	1	公民的分野	(1) 生存権について理解している。		○		●		
			(2) 社会権について理解している。	○			●		
			(3) 法律が制定されるしくみと内閣の仕事について、理解している。	○	○		●		
			(4) 地方分権と地方財政の視点から、その課題を資料から考察することができる。			○		●	●
			(5) 男女共同参画社会実現に向けた国や企業の取り組むべき課題について、資料から考察できる。			○		●	●
	2	公民的分野	(1) 消費税について理解している。		○		●		●
			(2) 市場経済における価格の変化について理解している。	○			●		
			(3) 商品ラベルの資料から必要な情報を読み取ることができる。	○				●	●
			(4) 日本の食糧自給率の変化について、資料を基に判断できる。		○		●		●
			(5) 円高について資料から判断し、考察することができる。	○				●	●
			(6) ユニバーサルデザインについて、資料から考察することができる。			○		●	●
4	融合	(1) 地形図からその特色を読み取ることができる。	○			●		●	
		(2) 薩長同盟の前後で、薩摩藩・長州藩の考えがどのように変化したかを資料を基に考察できる。			○	●	●	●	
		(3) 九州ジオパークの分布の特徴を資料から考察することができる。			○		●	●	
		(4) 株式会社について理解している。		○		●			

#### 4 標準解答及び考察

##### 1 〈標準解答〉

1	(1)	ユーラシア大陸	(2)	エ	(3)	約 4 時間
	(4)	(例) 北西の季節風が日本海をわたるときに湿気をふくみ、雪を降らせるため、ペキンに比べて、秋田は冬の降水量が多い。				
	(5)	(例) 工業製品	(6)	(例) 韓国などの賃金水準が高くなり、より安い国を求めて進出したから。		

##### 〈ねらい〉

日本とアジア諸国の結びつきに関する資料を基に、世界の国々と日本との関係について調べる場面の中で、世界と日本の地域構成や世界と比べて見た日本に関する基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力をみる問題である。

##### 〈考察〉

- ・ (4)のほぼ同緯度にある秋田とペキンの冬の気候が違う理由を資料から判断する問いの正答率は、28.1%で、地理的分野の中で最も低い。
- ・ (6)の日本の工場の進出した国や地域が、時期を経るにしたがって変化している理由を考察する問いの正答率は、他の問いと比べて低い。
- ・ (1)の韓国や中国が属する大陸を答える問いや(5)の台湾との貿易の変化に関する問いは、正答率がそれぞれ95.2%、85.7%と高く、十分な理解ができている。

##### 〈今後の指導〉

- ・ 地理的分野の各項目で学習した成果を踏まえ、世界的視野から見た日本の地域的特色や国家規模の地域的特色を考察する学習の充実を図る。
- ・ 資料を読み取る学習においては、多面的・多角的にさまざまな資料の中から規則性や違いなどを的確に読み取り、考察させる指導を行う。

##### 〈標準解答〉

2	(1)	ウ	(2)	(例) 総人口にしめる65歳以上の高齢者の割合は高くなります		
	(3)	ア	(例) 企業や学校	イ	(例) 近県からの通勤者や通学者が多い	(4) 仙台
	(5)	問題点 (例) 交通渋滞		取り組み (例) 観光事業をおこして都市部から観光客を招いたり、若い人々が働ける場所を増やしたりする。		

##### 〈ねらい〉

日本の人口問題に関する資料を基に、人口から見た将来の人口構成や地域的特色について調べる場面の中で、高齢社会の進展や偏る日本の人口分布、過密地域や過疎地域がかかえる諸問題に関する基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力をみる問題である。

##### 〈考察〉

- ・ (3)東京都の昼間人口が多い理由、(1)戦前の人口ピラミッド、(5)過疎地域活性化の具体

- 的取組に関する問いは正答率が高く、資料を的確に読み取り、考察することができている。
- ・ (4)の東北地方の地方中枢都市である仙台市に関する正答率が、47.4%と低い。誤答例としては、盛岡がやや多かった。
  - ・ (5)の過密地域がかかえる問題点に関する正答率も、他の問いに比べると低い。

〈今後の指導〉

- ・ 様々な資料から人口や都市・村落に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色を考察させる学習の充実を図る。その際、身近な地域への興味・関心も深めさせるよう配慮する。
- ・ 様々な地理情報を使って地域的特色をまとめさせたり、疑問に対する仮説を設定させたりして、そこから見えてくる課題や解決策などを発表する学習の機会を設ける。

2 〈標準解答〉

	(1)	ウ	(2)	イ	(3)	エ→イ→ウ→ア	(4)	鎖国
1	(5)	(例) 商業・金融の中心地で、全国から米や特産物が集まったから。			(6)	(例) 不平等条約を改正するために、近代化した姿を示す必要があったから。		

〈ねらい〉

歴史に登場する船や貿易に関する資料を基に学習するという歴史的分野の学習場面の中で、日本の歴史の大きな流れと、各時代の特色に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の古墳文化に関連する問いと(4)の鎖国について判断する問いは、正答率が高い。特に前者では、歴史的分野の中で最も高く、基本的な事項・事柄について十分な理解ができている。
- ・ (6)の日米修好通商条約と鹿鳴館の舞踏会との関連についての正答率は20.5%で歴史的分野の中で最も低く、全体でも2番目に低くなっている。欧米諸国と対等な外交関係を樹立するための努力に関する理解が十分ではないと考えられる。
- ・ (3)の中世から近世の歴史の流れについて、歴史的事象を年代順に並べる問いの正答率も46.2%と低く、基礎的・基本的な知識を基に、歴史的事象に関する資料を的確に読み取り、判断することができていない。

〈今後の指導〉

- ・ 歴史的事象に対する関心を高めるため、身近な地域の歴史やテーマに基づいた具体的な事象を取り上げ、歴史の大きな流れと各時代の特色を理解できるような指導の工夫を図る。
- ・ 年表や絵図など様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、その因果関係を理解するなど、歴史学習に対する興味・関心を引き出す授業を行う。

〈標準解答〉

	(1)	産業革命	(2)	(例) 総会が満州国の建国を認めず、日本軍の撤兵を求めたため、国際連盟を脱退する決定をした。				
2	(3)	イ	(4)	ア	(例) 自動車が右側通行だった。	イ	(例) 本土とは別に、アメリカが統治していたから。	

〈ねらい〉

近代から現代の鉄道などの交通の歴史に関する資料を基に学習するという歴史的分野の学

習場面の中で、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)のイギリスのアジア進出に関する具体的な資料から産業革命を答える問いは、正答率が高く、基礎的・基本的な知識や理解力は概ね身につけていると考えられる。
- ・ (2)の日本が国際連盟を脱退した背景を資料から判断する問いは、正答率が28.8%と低く、歴史的事象の因果関係を資料から判断することができていない。

〈今後の指導〉

- ・ 生徒の興味・関心を高めるような資料を活用して、生徒が主体的に調べたり考えたりするなどの活動を通して、疑問点を解決し、歴史を学ぶ意欲を高めるよう指導を工夫する。
- ・ 各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に選ぶとともに、各種資料から歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を自分の言葉で表現できるよう指導を行う。

③ 〈標準解答〉

	(1)	生存権	(2)	イ	(3)	機関	内閣	記号	ア
1	(4)	(例)自由に使える独自の財源を増やす	(5)	(例)30歳代の就労率が低いので、仕事と育児が両立できる環境づくりが求められる。					

〈ねらい〉

職場体験と公民的分野の学習との関連を説明で聞くという場面の中で、憲法で保障されている社会権や国会や内閣の仕事、地方財政の課題、男女共同参画社会などに関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の社会権のうち、生存権に関する問いの正答率は88.4%で、基礎的・基本的な事項がよく理解されている。
- ・ (3)の法律制定の過程と内閣の仕事、(4)の地方自治の課題に関する問いの正答率は、それぞれ27.2%と31.9%で公民的分野の中でも特に低い。誤答例としては、国会が多かった。

〈今後の指導〉

- ・ 公民的分野の学習は、生徒の家庭や学校、地域といった身近な生活と密接に結びついていることに気付かせるとともに、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して現代社会のかかえる問題を考察させるような学習の充実を図る。
- ・ 地方自治や男女共同参画社会の在り方を取り扱う際には、身近な地域における具体的な社会的事象と関連付け、その課題についても取り上げるようにする。

〈標準解答〉

	(1)	消費税	(2)	エ	(3)	ウ	(4)	A	(例)低下	B	(例)経済水域
2	(5)	ア	②	イ	不利	ウ	有利	(6)	(例)障がいの有無や年齢を問わず、誰もが快適に使えるものにするという考え方に基づいている。		

〈ねらい〉

スーパーマーケットでの職場体験を基に、公民的分野の授業で発表や学習に生かすという

場面の中で、消費生活を中心にした経済のしくみや為替相場、ユニバーサルデザインなどに関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の消費税を答える問いや(3)の商品ラベルから判断できる情報を読み取る問い、(4)の食糧自給率の変化に関する問いの正答率は、ほぼ90%以上で公民的分野の中でも高く、基礎的・基本的な理解が十分身に付いている。
- ・ (5)の円高や(6)のユニバーサルデザインに関する問いの正答率は、上記に比べてやや低く、資料からの確に読み取り、思考・判断する力が不足している。バリアフリーの考え方を書いている解答がやや目立った。

〈今後の指導〉

- ・ 経済活動の意義について生徒の経済活動である消費を中心に理解、考察させるような身近で具体的な事例を取り上げて学習の充実を図る。その際、経済活動の意義は、人間の生活の維持・向上にあることにも気付かせ、理解させるようにする。

**4** 〈標準解答〉

(1)	エ	(2)	(例) 外国勢力を排除しようとする考えから、幕府を倒そうとする考えに変化した。	
(3)	(例) 九州のジオパークは、火山が分布しているところに多い。		(4)	株式

〈ねらい〉

社会科学学習のまとめとして、興味をもった歴史上の人物について調査研究を行うという場面の中で、3分野に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (3)の九州にあるジオパークの特徴に関する問いの正答率は19.6%で、すべての小問の中で最も低い。分布図の資料などを活用して共通する特徴を見いだす能力が身に付いていない。誤答例としては、観光地や自然公園、山、海などが目立った。
- ・ (2)の幕末の薩摩藩と長州藩の考え方の変化に関する問いの正答率は32.3%で、倒幕への動きの理解が図られていない。

〈今後の指導〉

- ・ 分野の特質に応じた学習指導を展開する中で、他の分野の位置付けや役割に留意し、各分野の相互の有機的な関連を生かしながら、全体として調和がとれるような指導を行う。
- ・ 3つの分野全体を通して、習得した知識を活用して、社会的事象を様々な資料に基づいて多面的・多角的に考察したり、適切に表現したりするなどの工夫を行う。
- ・ 補充的な学習、発展的な学習などを取り扱う際に、3つの分野の関連を重視した学習を工夫して展開する。